

(様式第 4 号)

上田市都市計画審議会 会議概要

1 審 議 会 名	第 2 0 回上田市都市計画審議会
2 日 時	平成 3 1 年 2 月 1 3 日 午前 9 時から午後 4 時まで
3 会 場	上田駅前ビルパレオ 2 階会議室
4 出 席 者	高木会長、増澤副会長、成瀬委員、原委員、小林委員、中島委員、宮原委員、樋口委員、野口委員、相川委員、北村委員、田中委員、重野様（代理）、荻野委員、竹内様（代理）、北澤委員
5 市側出席者	
【都市建設部】	翠川部長
【都市計画課】	嶋尾課長、内川公園担当政策幹、金井調査計画担当係長、杉浦調査計画担当係長、矢島街路公園整備担当係長、堀内（秀）街路公園整備担当係長、矢野主査、井出主任、山極技師、依田主事
【土 木 課】	藤澤課長、皆瀬土木担当係長、吉池主査
【管 理 課】	樋口課長、朝日交通政策係長
【移住定住推進課】	西澤移住定住推進係長（代理）
【建築指導課】	三井課長
【丸子建設課】	堀内（俊）課長
6 公開・非公開	☒ 公 開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍 聴 者	2 人 記者 2 人
8 会議概要作成年月日	平成 3 1 年 3 月 1 2 日

協 議 事 項 等
1 開 会（挨拶：翠川都市建設部長）
2 会長、副会長の選出（高木 直樹会長、増澤 延男副会長）
3 議 事
（1）議事録署名人を選出
（2）事務処理報告 第 19 回都市計画審議会の事務処理報告
（3）上田市の都市計画について
（4）調査審議 【調査審議第 1 号】社会資本総合整備計画事後評価（千曲川リバーサイド地区（第Ⅱ期））について
◆（委 員）実施過程の評価において、モニタリングの実施状況なし、住民参加プロセスに実施状況なし、持続的なまちづくり体制の構築状況が別所線再生支援協議会の開催のみとなっておりますが、なぜ実施過程がないようなプロセスになったのか。
（事務局）本事業は第Ⅰ期からの継続事業であり、第Ⅰ期の時点においてもモニタリングや住民参加のプロセスをやっていなかったため、第Ⅱ期についてもそのようなことをやってこなかったもの。ハード事業がメインということもあり、市民の皆様と話し合っていこうということにはそぐわない部分もあるかと思うが、今後の事業の参考とさせていただきたい。
◆（委 員）この事業は引き続き第Ⅲ期になるのか。
（事務局）次期計画はない。

- ◆（委員）持続的な都市という視点で、現在全国的に力を入れているのは自転車道の整備ではないかと思われる。その中でも、川沿いの自転車道をサイクリングしたいというような要望がたくさん出ており、千曲市ではそうした取り組みをしているが、上田市に入ると自転車道がなくなるというような状況は解決していかなければならないと考える。

道路の拡幅等の課題も出てくるかと思うが、住民参加の場を設けると、自転車道が必要だというような意見が出てくると思われるので、そういった意見に沿った都市整備をしていただくことを望む。

- （事務局）上田建設事務所により、上田東高校の前の道路については自転車通行帯があり、御所・三好町地区の歩道の中には色分けしている。

上田市においても今後は市役所前の新参町線という市道の無電柱化、電線地中化を計画している。これについて地元の皆様にご参加いただいたうえ、自転車道を専用通行帯として出してもらいたいという意見を頂いているため、そのようにしていきたいと考えている。国の方でも自転車道の整備については強く推進しているものの、一部区間だけ自転車道を作るといったような計画ではなくて、広域的に自転車道を整備するようというのが国の趣旨になっているので、即座に当てはめることは難しいが、そのような事を念頭に置いて今後計画をたてていきたいと思う。

- ◆（委員）内水対策としてポンプの設置をされていると思うが、設置して以降、現在までにポンプの稼働実績はあるか。

- （事務局）ポンプの完成が平成 30 年 12 月であり、また雨季でもなかったため、これまでポンプが稼働した実績はない。

- ◆（委員）平成 30 年 12 月に完成して、今現在において評価すべきではないと思う。

そのあたり、たとえば当時と同じ雨が降ったらこうなるといったシミュレーションしか評価のしようがないと思うが、いただいた資料を見てしまうと「ポンプが出来たから内水が全く起こらなくなった」という書き方になってしまっているのもう少し工夫が必要だと思う。

- （事務局）ご指摘のとおり、この指標の成果をもって、本当の成果が働いたとは言い難い。夏場の雨季を迎えるにあたり、経過観察という意味でも結果を確認していきたいと思う。今回は 5 年毎の評価ということで、いったんは取りまとめさせていただいたが、今後はそういった形で対応していきたいと思う。

- ◆（委員）この内水対策事業はどれくらいの雨を想定して行ったか。

- （事務局）設計上では 10 年確率で雨量を算出して施工している。

- ◆（委員）最近の異常気象の影響もあるかと思うが、ここ 1～2 年の間には全国的に信じられないほどの大雨が降っており、10 年確率の統計データではこの大雨が反映されていないと思われる。上田市ではここ数年 10 年確率を超えるような大雨は降っていないのか、それとも降ってはいるが大丈夫だったのかを知りたい。

- （事務局）諏訪部地区については、これまでの 5 年間ににおいてはそういった大雨による浸水被害の報告はない。

- ◆（委員）長野市内でも 24 時間で 100mm という雨が降っているのが現状で、極端な雨が降ったらいかなる人工的な対策も対処のしようがない。

そういった意味ではどんな対策をしてもリスクは残っているということを住民の皆様にも絶えず伝えていかないといけないと思う。適宜そのあたりの周知をお願いしたい。

- ◆（委 員）ポンプの稼働にあたり、事後評価ではハード部分しか為されていない。
金銭的、予算的、コストパフォーマンス的なことは事後評価に盛り込まないのか。
- （事務局）特別この費用において、後々効果があったかどうかということについては個別には検証していない。
- ◆（委 員）たとえば別所線の橋脚の補強であるが、専門業者がやっていると思われるので、有効性、耐久性、耐年性というのはある程度数値化されて出てきていると思うが、そのあたりの情報は市民に提供していないのか。
また、たとえば5年後にもう一回やりかえるという可能性がある中で、その可能性は事後評価には入っていないのか。
- （事務局）そういった観点では評価していない。今回例えば修復・補強をしたとして、この次はいつになるかということは想定していない。
- （委 員）想定していただいた方が市民目線でいうと分かりやすいと思いますが、そのあたりいかがか。
- （事務局）災害等のことも考えなければならないので、評価は難しいと思うが、研究させていただく。
- ◆（委 員）指標2において、世帯数が200世帯増えたとあるが、その内訳として市内の他地区からの移住なのか、市外からの移住なのかということは把握しているか。
- （事務局）この数字は市への届出によってどれだけの増減があったのか、自治会単位での指標だけを用いているため、人がどう動いたかというのは把握できていない。
しかし、この後の調査審議である立地適正化計画の関係になるが、指標・目標をたてたうえで今後人口がどう動いていくのかモニタリング、追跡調査を行う予定である。
やり方としては、自治会単位で人口の増減があった場合、増があった場合はどこから来たか、あるいは減の場合はどこへ出ていったか調査するものである。
個人を特定するものではないので、ここまでの調査は可能であるため、こういった調査を進めていく予定である。
- ◆（委 員）天神の杜のデータであるとか、もし地域が特定できるのであれば、不動産業界や建設業協会、住宅業協会ではかなり精度の高い情報がある。要請があれば個人名を隠して情報提供できるかと思う。
- （事務局）貴重なご意見であるため、是非参考にさせていただく。

審議結果

特に問題なしとして、上田市長に報告する。

【調査審議第2号】上田市立地適正化計画について

- ◆（委 員）上田市においては、武石地域と真田地域が都市計画区域外であるが、立地適正化計画を進めていくうえで都市計画区域外を取り込んでやっていくなかで、問題や整合性、齟齬等が生じる可能性はあるか。
また、良いか悪いかという議論は別にして、真田・武石地区の方達は都市計画区域税を負担していない中で、そういった税金を使ってどうだという議論が詳細に為される場合、引っかかると思うが、そのあたりはいかがか。
- （事務局）上田市域全域を立地適正化計画の区域に含めた理由として、同計画は都市計画マスタープランの一部としていることから、まちづくりというのは全市一体で進めていかないと不十分な施策になってしまうからである。
そのなかで都市計画区域内外の違いというところであるが、それぞれに合わせた説明は必要になる。都市計画税の負担の面でどうしても平等性に関する議論が挙がるが、これは都市計画に入るメリット、デメリットを市民の皆様としっかり話しながら、今後のまちづくりにおいて何

がベストか一緒に考えていく必要がある。

- ◆（委員）丸子中央病院は二次医療もすべてやっているが、都市機能誘導施設ではないのはなぜか。
また、丸子地域の都市機能誘導区域であるが、丸子中央病院をはじめ、様々な便利施設があるため徒歩で普段の生活が賄えるエリアになっており、コンパクトシティに近いものになっているが、上田地域とのアクセスが非常に悪い。
というのも、国道 18 号線は渋滞しており、迂回路についても神川に架かる橋の手前の渋滞により、丸子地域へのアクセスが非常に悪い状況がある。
拠点間交通の要は上田駅になると思うので、そこへのアクセスという点を考慮した計画を進めていただけるとありがたい。

（事務局）都市機能誘導施設に指定すると都市再構築戦略事業を行うことが出来る一方で、都市機能誘導区域外での立地を抑制するという二面性がある。そのうえ上田地域と丸子地域に都市機能誘導区域があるのが難しいところ。たとえば上田地域で都市機能誘導施設に指定してしまうと、丸子地域では同施設の立地を抑制することになってしまう。

しかし、その施設の特色があれば上田地域及び丸子地域両方に都市機能誘導施設として指定ができる。

丸子地域のアクセス性の問題については大きな課題となっているため、丸子地域の公共交通であるバスのハブ化、ターミナル化の検討を進めており、その対象地は丸子中央病院のあるところになるかと思われる。

また、交通渋滞の件であるが、社会整備資本総合交付金事業による道路改良を行っており、また神川小学校に向けて橋を新設、架け替えをすることで渋滞緩和を図る予定であるので、ご承知いただきたい。

- ◆（委員）人口を集めていく地域と集めていかない地域で、集めていく地域には生活に必要なものを集めていくというような計画ではないのか。また、ここまでの理解が正しいのであれば、居住を促進するための誘導施策として講じるべきは開発行為の規制緩和ではなく、規制になると思うのだが。

豊かな田園や緑のある地域を出来るだけ残し、今住んでいる地域においてスポンジ化現象が起きないように、区域以上に人が広がらないようにするとか、あるいは人口の半減にあたり区域を半分の大きさにするとか、そういった計画でないと意味がない気がするのだが。

（事務局）コンパクトシティという言葉はどうしても施設集約、人口集約というものを連想させる。実際のところ、国の提示する立地適正化計画の制度、施策のみでは集約に結びつかないのではないかと市では考えている。

そこで計画に強制力を持たせるか否かというところで、拠点集約について市民の皆様は「選んでいただく」というのが上田市の独自の考え方として特徴がある。

というのは人口が減少する時代においても魅力があり、住みたいと思える地域を保てていれば、おのずと人口はそこに留まるというように考えているため。

開発規制については、居住誘導区域、都市機能誘導区域、生活複合拠点区域、あるいは用途地域等、区域に設定したところについては、条例で緩和しようと考えている。

区域外について規制をするというのも考え方の一つとしてあるが、上田市ではそのように考えておらず、まずは「こちらの方が開発しやすい」という段階を作り上げ、スポンジ化する都市の中心部にまずは人口を引き込みたいという思惑のもと、運用を検討している。

- ◆（委員）上田市の中心部についてはスポンジ化しないように開発規制緩和を施策として考えているとのことだが、周囲のところは交通状況や道路を良くしていく以外に、まちに何ができるのか教えていただきたい。

（事務局）この先 40 年～50 年というなかで、人口が減っていき、都市構造を 1 つに集約しなければならないという時期がこの先来るかもしれない。

しかしそうしたイメージが市民の皆様だけでなく、我々行政においても想像できていないのが現状である。

しかし、そうしたなかで何をやるべきであるかはたった一つで、「人口減少社会が必ず到来する」ことを皆で認識するという。市は一体何ができるのかということも含め議論し、ともに考えていかなければならない。

立地適正化計画はあくまで枠組み作りの計画であり、これをベースに話を始めましょうというもの。はっきりした回答が出来ず申し訳ないが、今言える範囲のなかでお答えした。

- ◆（委員）人口が増加している地域はおそらく今は住宅地でなく、これから住宅地として選ばれていくであろう地域であると思われるが、そういったところは中心部のスポンジ化進むから住宅地にしてはダメというように、コンパクトシティについて理解をしている。

この計画だと、これまでどおり皆が住みたいところに住み、また皆が住みたいのはこのあたりなので、住宅会社さんこのあたりどうですかという、時代に逆行した計画にしか見えないのだが。

- （事務局）上田市としては拠点集約型都市構造ということで、拠点をたくさん持って持続させ、地域間交通を強化させることを目標として掲げる一方で、国の支援制度の考え方が変わってきており、それに対応するために立地適正化計画を策定したという側面がある。

仰るとおり、逆行した部分があるのではないかとのご指摘は確かに受ける。

しかしここで申し上げたいのは、市町村のコンパクトシティ形成が人口減少の問題に対する緩和になりえるのかということ。

上田市の都市構造は今現在において、ある程度の拠点化傾向にあり、中心市街地に向かって生活のベクトルが向いている。しかしここで問題になるのは人口減少が著しい丸子・真田・武石地域で、コンパクトシティだけに目がいってしまうと、こういった地域が衰退してしまうのではないかと懸念を持ちながら計画を策定していることをご理解いただきたい。

- ◆（委員）立地適正化計画における事前の届出制度は指定区域外での開発行為に対してであり、現状確認のために行うとあるが、将来的な立地規制の検討を踏まえたデータ収集を兼ねるのか、あるいはあくまで確認のためだけに行うのか。そのあたりの考えを聞きたい。

- （事務局）立地適正化計画の制度上、居住を抑制するために「居住調整区域」を指定することができるが、上田市ではそういった区域指定する予定は今のところ全くない。

しかし、20～30年後にはそういったことも検討が必要になるという予想はしている。

- ◆（委員）居住が増える地域は時代によって異なるもの。都度変更を加えるのは難しいとは思いますが、ある程度将来の人口減を見据えて、特に居住誘導区域の指定は慎重に考えていただければと思う。

- （事務局）この計画は5年毎に見直すものになっており、今年の3/25に公表以降、見直しに向けて色々なデータ整理等を始める。

都市機能誘導区域、居住誘導区域、生活複合拠点、ひいては用途地域についても必要があれば変更を行うし、用途地域の見直しについては、今まさにやっている最中である。

「まちには常に動いている」ということを肝に銘じ、これからもまちづくりを考えていきたい。

審議結果

原案のとおり認めることとして、上田市長に報告する。

【調査審議第3号】上田市緑の基本計画について

- ◆（委員）計画の中には他市の先進事例や国の施策等が記載されているが、このうち上田市では何をしていくのか伺いたい。

また、上田市でもクライナガルテンの事業に取り組むとあるが、どのようなクライナガルテンになるか、この計画を見てもわからない。クライナガルテンのようなところで農業に従事したい

という方が非常に多い中、何か具体的な取り組みを入れていかないといけないという印象を受けた。

(事務局) コラム欄にある内容だが、すべて上田市に合致するものではないものの、参考までにこういったものがあるという紹介をしたものである。

このうち国による市民緑地認定制度については非常に採択の条件が厳しいが、平成 30 年に長野県により実施されている、小さな緑地整備にも合致するような支援制度もあるため、研究を進めていきたい。

上田市におけるクラインガルテンについては、神科・豊殿地域の現在岩清水という地区で他課所管のもと、工事を行っている最中である。

- ◆ (委 員) 計画の最後に PDCA サイクルの図の記載があるが、このうち評価・点検というのは誰が行うかが重要になると思う。評価点検や改善見直しのところは内部の方である市役所職員の行うものではなく、外部の目でチェックしていかなければいけないと思うので、このあたりどう考えているか伺いたい。

(事務局) 仰るとおりである。市内の地域協議会や都市計画審議会等に進捗状況等のご説明のうえ、お諮りすることを検討していきたい。

- ◆ (委 員) 岩清水地区のクラインガルテンが工事中ということだが、せめてイメージ写真や案内図は計画に載せるべきではないか。

(事務局) 仰るとおりである。本計画に載せていきたいと思う。

- ◆ (委 員) 信州大学の工学部のある研究室において、まちなかの空き家を壊して、その土地を畑にするという試みが長野市内で見られる。そのうちの例として、隣の空き家が畑になったことで、フランス料理屋の周辺の景観が良くなる等の良い循環が生まれはじめている。

上田市においてもそういったことは似合うと思うところがあるので、今後の参考にさせていただければと思う。

(事務局) 参考とさせていただき、先進地の事例等含め研究を進めていきたいと思う。

- ◆ (委 員) 計画の中に外来生物の対策について、上田市内の自治会毎に行っているという記載があるが、具体的にどこがやっているか調査は行っているか。

また、コラム欄に対策を行っている様子や、どのような自治会が行っているかを記載すると、活動が広まるかなと思うので、そういった点も検討していただければと思う。

(事務局) 各自治会に入り込んでの細かな調査や実態把握はしていない。

また各自治会の活動について、今回の計画に載せるかどうかは未定であるが、見直しのなかで検討していきたい。

審議結果

一部修正事項を除き、原案のとおり認めることとして、上田市長に報告する。

(5) その他

①上田都市計画用途地域の変更について

②上田市太陽光発電施設設置に係る条例の検討について

4 閉 会 (挨拶：翠川都市建設部長)